

座学と実習の一体化を中心とする中等職業教育のカリキュラム開発 —上海市における「実技主導型」モデル—

朴 雪梅*・井上真求**

Curriculum development of Secondary Vocational Education Centered
on the Integration of Classroom Lectures and Practice
—The "Task-oriented" model in Shanghai—

Xuemei Piao, Maki Inoue

【キーワード】「実技主導型」モデル, 総合的な職業能力, 一体化, 仕事のタスク

1. 問題の関心と研究の目的

職業教育とは端的に言えば、一定あるいは特定の職業に必要な知識・技能・態度等を育成するための教育である¹⁾。もともと、「学歴社会」である中国では、職業教育の社会地位が低く見られる傾向があったが、急速な経済発展に伴い職業教育に基づく人材育成が重視されるようになってきている。そうした経済・社会の発展に対応する人材育成の目標に基づく職業教育のカリキュラム開発に政府や職業教育研究者の関心が集まり、とくに中等職業教育は基盤となり、人材育成の質の向上が重視されている。

習近平体制の下で、教育部は「現代職業教育体系」²⁾を構築しつつある。中等職業教育はその一環として重要な部分であり、その段階を普及させるため、「校企合作」で生徒を育成する現代的な見習い訓練の展開等の人材育成モデルの革新を求める³⁾。なお、中等職業教育における改革のモデル校の構築や教育の実施をしている⁴⁾。そのために、職業学校でカリキュラムが開発されている。伝統的な座学と実習の二元分離化の「学問化」⁵⁾を打ち破り、座学と実習の一体化の「実践指向化」⁶⁾という新たなカリキュラム開発モデルが行われている。

本研究の目的は、中等職業教育のカリキュラムに着目し、座学と実習の一体化の視点から上海市における「実技主導型」モデルの開発経緯を明らかにすることである。「一体化」とは

所属および連絡先

* 大阪千代田短期大学

** 京都府立大学大学院 公共政策学研究科

「座学，実習，企業の生産サービス，科学や技術等内容と結びつき，実習場で授業を行い，自らの実際操作で実技を身につける」⁷⁾ ことである。「実技主導型」モデルとは「仕事のタスクを中心とし，理論知識と実践技術の一体化する」⁸⁾ ことである⁹⁾。

2. 先行研究と研究方法

2-1. 先行研究の検討

近年，中国における職業教育カリキュラム開発に関心を持つ研究者である黄克孝¹⁰⁾によれば，職業教育の発展は，職業教育カリキュラム理論の誕生を呼び起こす。そして，職業教育カリキュラム理論の誕生は，経済・社会の進歩と職業教育の発展を切り離すことはできないという。労働市場等要素から分析し，社会市場経済の発展のため，人材育成の重要な役割を担う職業学校教育において座学と実習の結合という必要性を見出した。しかし，座学と実習を如何に結合させるのか，また，座学と実習の割合がどのように適切に配分されるのか，ということが問われた。以下に，中国の職業教育カリキュラム開発の背景を述べる。

蔣乃平¹¹⁾によって「寛基礎・活模塊」カリキュラムモデルが開発された。このモデルも労働市場の実際ニーズに基づいてカリキュラムを編成した。その特徴は次の三点にまとめられる。①普通科目や専門理論科目と基礎モジュールや実習モジュールという二元化を結合すること，②その二元化の結合に基づき，職業能力の総合性と柔軟性を持ち，生徒の就職適応能力を高めること，③学科中心から能力本位への移行の間に独自のカリキュラムを組み込むことを試みしたもの，である¹²⁾。

2000年代の初期から，呉・周は「工学結合」¹³⁾（仕事と学習の結合）「半工半読」¹⁴⁾（パートタイムで仕事と学習の交互に行う）という学校と企業の連携により，実践的な技能訓練を重視するという人材育成モデルを研究している。なお，諸外国の経験を検討しながら，特色のある中国職業教育の「工学結合」モデルをより改善する課題，が明らかとなっている。そして，孟慶国（2009）¹⁵⁾は現在の職業教育における「就職に導く」という教育理念を通して，「一体化」教育実践を取り上げたものであるが，二元化結合のカリキュラムの実践に留まった。丁妍（2008）¹⁶⁾によれば，中国における中等職業教育が資本主義諸国の先進的な職業教育経験¹⁷⁾を吸収しつつあり，自国の研究機関や実践校の教育改革に取り組んだ。実験の推進によって，学校では「能力本位」の教育思想が徐々に広がり，難しい理論知識に偏る教授の傾向を改め，実践を主体とする教授モデルへと移行し，総合的な職業能力の養成を重点とする教育課程体系を構築している。技術労働者学校におけるカリキュラムをみると，理論科目と実習科目とが分離した従来のカリキュラムを調整し，両者を一体化することは教育効果を高める上で有益な試み¹⁸⁾と言われた。

朴¹⁹⁾は学校を基礎とするカリキュラム開発の視点から、中国独自の職業教育カリキュラム開発モデル「寛基礎・活模塊」と「実技主導型」モデルの比較研究を通して、「実技主導型」モデルは仕事内容を中心として理論（座学）と実践（実習）を一体化するカリキュラムであること、また企業のニーズや、職業能力のニーズを緊密させ、それで学習意欲が高めていく課題を追求している。

先述の通り、座学と実習の結合で技能人材を育むことが重要であることから、座学と実習の一体化を中心とする「実技主導型」モデルをさらに検討する必要があると考えられる。これまで10年間の「実技主導型」モデルの教育実践の到達点について、このような文献な整理は管見の限りでは未だ見られない。そこで本研究では、まず、中国における上海市で進められる「実技主導型」モデルの開発経緯と課題を徐国慶の理論を代表として整理し、そのモデルの到達点と課題を解明することを目的とする。次に2015年5月上旬に行った上海職業教育調査に基づき、その実態を分析し、座学と実習の一体化を中心とする中等職業教育カリキュラムを開発してその普及を推進する有効性と、課題を探る。

2-2. 研究方法

本研究では、2015年5月上旬に訪問調査で上海華東師範大学職業教育と成人教育センターの徐国慶教授、国家重点中等専門学校である上海市振華外経職業技術学校の教員を対象として、インタビューを実施した。

調査対象地域は上海を中心とする理由は、前述のようにこれまで諸形式のカリキュラム開発モデルの実験を比較すると、より具体的な理論²⁰⁾を提供し、実験校の教育改革に取り組んだ。すなわち、上海市における「実技主導型」モデルは以前の理論を中心とする「学問体系」を打ち破り、「実技」を強化し、「総合的な職業能力」の人材育成という教育実験を行っている。その実験の順調な実施を保障するために理論的な枠組みの整備を推進されたことである。

学校の選定について、同校も「実技主導型」モデル校とし、情報IT化の進歩に伴い、コンピュータの教室で座学と実習の一体化を中心とする授業を行っている²¹⁾。

3. 「実技主導型」モデルのカリキュラム開発経緯

ここでは、上海市における中等職業教育のカリキュラム開発の例として、徐国慶の職業教育カリキュラム開発論を取り上げて、その具体的な内容を見ていく。

3-1. 上海における中等職業教育のカリキュラム課題

1) カリキュラムと産業現場のニーズの乖離、従来のカリキュラムは理論（座学）中心であ

り、「学問化」に偏り、専門理論が深く、生徒の学習意欲がますます低下し、授業も難解となり、実習設備の資源が乏しく、職業教育の近代化にマッチされてなかった。

- 2) 総合的な職業能力に基づく専門分野のカリキュラムの基準がないこと、能力を導くカリキュラム改革の理念が円滑に実施できないこと
- 3) 20世紀90年代、中国における諸省市では職業教育のカリキュラム改革を行ってきたが、次々に問題が明らかになり、カリキュラムの改善が必要であることが明らかとなる。
- 4) 新しいカリキュラムモデルは職業教育の専門家や専門教員は諸外国の先進的な経験を導入し開発された。しかし、自国の特性や教育理念、教育環境への考慮の欠如で実施が難航している。

上記のような問題を解決するために、徐（2005）は職業教育カリキュラムの中に「実践」ということを見直し、「実践指向化」の人材育成の目標を「技術実践能力」²²⁾とした。その目標を達成するため、座学と実習の関係を再構築する必要があること、すなわち、職業学校の専門教員と企業の専門家等共同で新しいカリキュラムを開発すること、が明らかになっている。

3-2. 「実技主導型」モデルのカリキュラム開発論

「実技主導型」モデルとは「上海市中等職業教育における課程教材の改革をいっそう推進するプラン（2004-2007）」によると、「能力本位」に基づく人材育成を目指し、仕事の内容によってコースを設置するカリキュラムである。徐の2006年における「実技主導型」モデルの特徴は、次の二点にまとめられるだろう。すなわち、①典型的なタスクを分析してカリキュラムに変更され、仕事の内容の関連性をカリキュラム化すること、②生徒に部分的なタスクを完了することではなく、全体的な作業のプロセスの完了を身につけさせ、教科指導（座学や仕事の指導（実習））の一体化を行うこと、である。そのカリキュラム開発論は「関係論、仕組み論、総合論、結果論」²³⁾という四つに分かれている。

「関係論」は職業能力を如何に育成するのか、これはカリキュラム開発の起点となり、すなわち人材育成の目標となる。「仕組み論」はどのように職業教育カリキュラムの枠組みを構築するのか、「総合論」はどのようなカリキュラムの内容を編成するのか、「結果論」はどのように教育実践するのか、という問いにまとめられた。

第一、「関係論」（職業能力の分析）とはドイツの職業教育研究者フェリックス・ラウナー教授（中国語：費利克斯・劳耐尔）の「行動指向モデル」（ドイツ語で「Handlung sorientierung」であり、英語で「Action orientation」と翻訳された）²⁴⁾と「能力本位」CBE（Competency-based Education）²⁵⁾の影響を受けた。その中で「能力」は英語で competence であり、徐は「仕事や職務を担当する能力があること」と説明した。すなわち、「総合的な職業能力」であり、仕事に関わる知識（knowledge）、態度（attitude）、経験（experience）、評価（feed-back）を含む。

そして、中国の特色である「能力本位」という職業教育のカリキュラム開発は「労働者の仕事タスク表」をカリキュラムの最も重要な基準とし、企業の専門家は主として職業能力を分析し、仕事の「達成する目標 (performance objective)」を明らかにする。学校の専門教員等はそれに基づき、教育目標に変換する。なお、仕事に関わる知識・技能をカリキュラムの内容に変わり、教育目標に基づいて評価することである。そのうち、「達成する目標」とは各専門分野の教育目標となり、「最終目標」(terminal objectives)と「促成目標」(enabling objectives)という2つに分けられる。「最終目標」とは仕事のタスクを完了できる職業能力である。「促成目標」とはその「最終目標」を達成するために、いくつかのタスクを分解し、それらのタスクを完了できる知識・技能・態度を育成することである²⁶⁾。例えば、上海市振華外経職業技術学校の「電子ビジネス」専門分野の中では、コンピュータの操作、各種常用文体によるテキスト作成、事務ソフトウェアの操作など能力を身につけることを「促成目標」とし、ビジネスの革新能力、ビジネスの情報管理、ビジネスの応用操作やサービス等が求められる「最終目標」を達成し、現代IT職場に勤めるようになる。

さらに、仕事や職務はいくつかのタスクに分かれ、それぞれのタスクについて具体的に分析することが必要となる。しかし、仕事のプロセスの中に、それらのタスクが乖離されるのではなく、コア要素として労働者、仕事の工具、仕事の方法、と仕事の製品、それらの要素を相互関連させること、そしてその関係性は仕事の環境に伴い適応変化できること。したがって、職業学校にとって、仕事のタスクを中心とする職業能力の分析は必要な前提として、重要なカリキュラム内容としての理論的知識(座学)と仕事のタスク(実習)の一体化することが明らかとなる。

第二、「仕組み論」(カリキュラムデザイン)とは「理論的知識」(座学)と仕事の「典型的なタスク」(実習)の一体化への移行することである。すなわち、カリキュラムの枠組みが如何にデザインにされ、知識とタスクの結合をより促進させるのか。「学問化」という伝統的な職業教育カリキュラムは理論的知識の重要性を強化し、生徒に知識の応用を通して技能を身につけさせた。それにしたがって、職業教育の育成目標は「高分低能」(テストの点数が高いが、社会への適応力や人間関係処理能力が低いこと)の現象という社会問題が深刻になり、大幅に労働市場や経済の発展に影響を与えることとなってしまった。それでカリキュラムの枠組みをデザインするとき、「学問化」を打ち破り、「実践指向化」を取り入れるということが必要になった。「実技主導型」モデルは職業能力の分析結果に基づき、生徒にこれらの能力を育成することである。さらに生徒にとって、職業能力をより育成するため、仕事のタスクに焦点を当てるだけでなく、それらのタスクに関連する知識や技能をどのように身につけさせるのか、それは知識(座学)と行動(実習)の一体化というカリキュラムデザインを通じて得られる。(図1)²⁷⁾

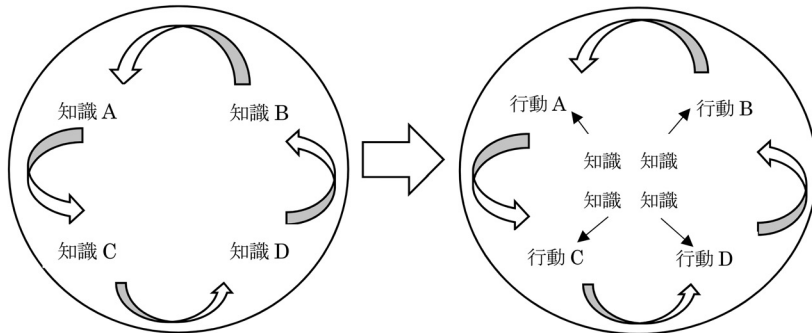


図1 「知識の内的関係から知識（座学）と行動（実習）の一体化への移行の仕組み」

第三、「総合論」（カリキュラム編成）は「仕事のタスク」・「教育内容」・「技能内容」の分析を通じてカリキュラムを編成し、カリキュラム内容の基準となる。前述のような「実技主導型」モデルは仕事のタスクをめぐって、その一つ一つを具体的に分析し、それに関わる知識・技能・態度を身につけさせることである。それに従って、「実技主導型」モデルは仕事や職務にもかかわらず、一つの特定のタスクに限定する生徒の関心を持ちやすくなる。しかしながら、いくつかの特定のタスクに熟練できるが、多くの場合、全体の作業プロセスを円滑に完了できなくなる。そんな傾向を避けるため、「実技主導型」モデルは「総合論」を取り入れることとなる。すなわち、実技主導のカリキュラム内容には仕事のタスク・教育内容・技能内容に分けられている。そのカリキュラムを編成する手順は以下のとおりである²⁸⁾。

- ①「仕事のタスクと職業能力の分析表」に基づいて仕事のタスクを明確すること
- ②「職業能力の分析」によって「技能内容」と要求を明確すること、
- ③カリキュラム開発者は各技能に関する「教育内容と要求」を明確すること、「実技主導型」モデルの中で、「教育内容」は「理論内容と実技内容」である。「実技内容」とはある仕事のタスクを完了するために、「必要な応用内容」であり、専門コア科目や、専門化方向と専門実習科目を含む。「理論内容」とはその仕事のタスクを完了するために、「必要な解釈内容」であり、共通基礎科目を含む。

上記の内容を要するに、「実技内容」や「理論内容」いずれも「仕事のタスク」によって選択し更新される。座学と実習の二元分離化から「仕事のタスク」を中心とする座学と実習の一体化（図2）²⁹⁾へのカリキュラムの枠組みになっている。

図2のようにAの伝統的なモデルからBの「実技主導型」モデルの変遷となる。Bカリキュラムの内容は「仕事のタスク」を中心として編成することを明らかになる。そのメリットはカリキュラム内容と仕事内容を緊密につながることで、生徒に一体化の授業を通してその関連性を直感させ、学習意欲を大いに呼び起こすこと、と言える。

第四、「結果論」（教育実践－評価）では座学と実習を一体化し、生徒が全体的な作業のプロ

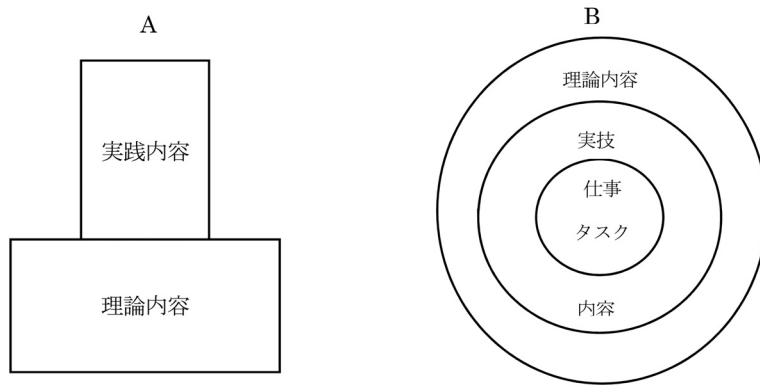


図2 理論内容と実践内容の変遷

セスを習得できるよう、総合的な職業能力を育成することである。そのため、「実技主導型」モデルは「典型的なタスク」を基づいて座学と実習の一体化の教育を行い、生徒にそれを通じて実用的な価値がある製品やサービスによって評価される。すなわち、仕事の成果の追求を用いて生徒に積極的に働きかけること、という一つの特徴が明らかになる。具体的に言えば、20世紀90年代より職業学校では学歴証書や職業資格書並行して取得させるという「双証書」の評価を行っている。しかし、生徒がそれらの資格を取得するため、「分担協力」（学校での学歴教育と企業内の実習）で実行している。そのゆえ、座学と実習の二元化する乖離となり、生徒は受験のために教育・訓練を受けることになってしまい、職業能力の人材育成にとって極めて不利だと思われる。それゆえ、「双証書」を改革することが必要となっている。2000年に入り、その一歩進めた「双証融通」（図3）³⁰⁾ という新たな評価となって、上海市における中等職業学校は2012年から改革されて行っている。企業の専門評価家を中心として職業学校の実習センターに誘われ、職業資格レベルの評価を行う。以下に、上海市における訪問調査（2015年5月6日－9日）を通じて「実技主導型」モデルの事例を分析する。

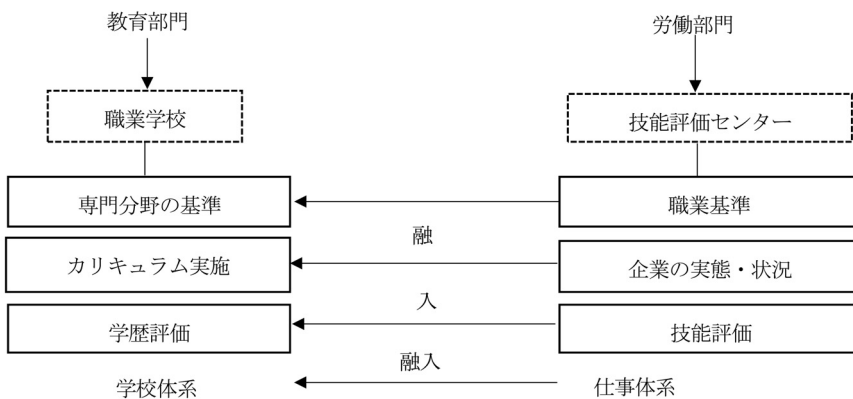


図3 「双証融通」の仕組み

4. 「実技主導型」モデルの事例

4-1. 上海市振華外経職業技術学校の概況

当校は、国家級重点校であり、また上海市中等職業教育改革モデル校でもあり、開校30年の歴史を有する。現在、設置されているコースは以下の通りである（『国家級重点上海振華外経職業技術学校』訪問日配布資料）。

専門（主要）コース：

①国際ビジネス International Business Department（6つの小コース）、②電子ビジネス Electronic business Department（2つの小コース）、③情報技術 Information Technology Department（4つの小コース）、④旅行サービス Tourism Department（5つの小コース）

なお、在校生総数、約3800名、学校教職員総数、190名、専任教員総数、151名である。以下、各専門コースの特色について、まず、電子ビジネスコースでは、大学と接続する「7年一貫制」（中等職業3年＋大学本科4年：取得学位は管理学学士）を敷く。提携先の大学は、上海杉達学院（上海交通大学、北京大学、清華大学という三つの大学の一部教授は1992年に創立）である。次に、国際ビジネスコースでも、高等職業学院と提携する「中高職貫通制」を敷く小コースを設置している。提携先は、上海思博職業技術学院である。

当校の校長は、その特色である「校企合作」に関して、5つの方針を述べた。

- ①企業の専門家が来校して、学校の教員と交流しかつ授業を担当する。
- ②本校の教員が企業を訪問して、直接に仕事の知識・技能を身につける。
- ③教育委員会等の行政機関は毎学期に学校へ赴き、カリキュラム、シラバス等について、経済・社会のニーズに基づいて検討する。
- ④3年次より従事する校外実習を通じて、企業の担当者は生徒のレベル（善し悪し）を評価する。
- ⑤職業教育の研究では、大学の研究者とともに企業（専門家）の経験を検討して進める。

4-2. 電子ビジネスコースのカリキュラムの特徴

（1）電子ビジネスコースの概要

当校の電子ビジネスコースは、コンピュータ科学、市場経営学・管理学および現代物流学が一体化した学科である。ここでは、様々な商取引のウェブサイトや実際の企業に向けて、電子商取引の活動に従事するための比較的すぐれた操作技能を習得する。その技能とは、最前線の仕事を確実に担うことのできるビジネス情報管理、電子商取引の運営、取引先サービスと管理、ビジネスのためのウェブサイトの開設とメンテナンス、ネットショップの経営等である。さらに、インターネット思考と国際的な視野を持つ発展的スキル人材の育成を目指している。

（2）カリキュラムの構造と特徴

このコースのカリキュラムは、語文や数学などの公共基礎科目、現代ビジネス・ビジネス情

報処理・電子ビジネス・ビジネス文字入力の4科目で構成されている専門コア科目，コース別の科目として電子ビジネス応用の専門科目と3段階に分かれている（図4参照）．さらに，その他の科目として3年次に「企業実習」が実施される．2014年度実施のカリキュラムの特徴としては（表1カリキュラム表参照），共通基礎科目が全体の35%しか占めておらず，半数以上が電子ビジネスの専門科目あるいは企業実習といった電子ビジネスの専門・具体的な仕事に関する科目で占められており，普通科目が全体の1/3程度となっている．さらに，専門に関わる科目の65%のうち，33%は「企業実習」であり，1年次・2年次で共通基礎科目・専門科目および選択科目を履修し，3年次では企業実習のみの履修となっている．なお，専門コア科目と応用科目の教育内容は表2である．しかし，2015年度からは年間通して行っていた3年次の「企業実習」を半年にし，学校で生徒の理論的知識の育成をより一層重視していくという．

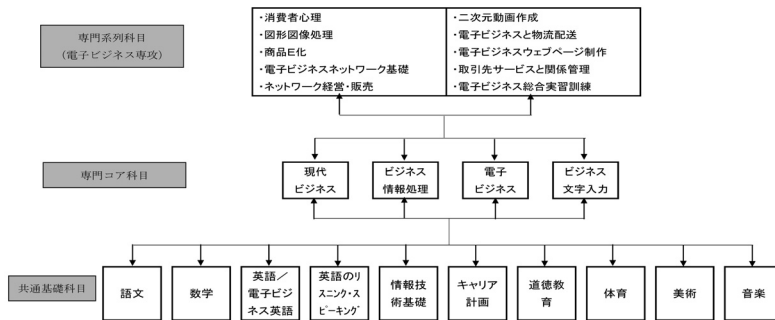


図4 カリキュラムの構造図

表1【電子ビジネスコースのカリキュラム表（2014年度実施）】

科目分類	科目名称	総単位数	時間配分						全体に占める各科目の割合
			1年 前期 18 週	1年 後期 18 週	2年 前期 18 週	2年 後期 18 週	3年 前期 18 週	3年 後期 18 週	
共通基礎 科目 (公共基礎 必修)	語文(語文)	12	3	3	3	3			7%
	数学(数学)	12	3	3	3	3			7%
	英語/電子ビジネス英語 (英語/电商英語)	12	3	3	3	3			7%
	英語のリスニング・スピーキング (英語听说)	4	1	1	1	1			2%
	情報技術基礎(信息技术基础)	5	5						3%
	キャリア計画(职业生涯规划)	2	2						1%
	徳育(德育)	6		2	2	2			3%
	体育(体育)	8	2	2	2	2			4%
	美術(美術)	2			1	1			1%
	音楽(音乐)	2	1	1					1%
小計		65	20	15	15	15	0	0	35%
専門コア 科目 (专业核 必修)	現代ビジネス(现代商务)	2	2						1%
	ビジネス情報処理(商务信息处理)	5		5					3%
	電子ビジネス(电子商务)	4			4				2%
	ビジネス文字入力(商务文字录入)	8	2	2	2	2			4%
	小計		19	4	7	6	2	0	0
電子ビジ ネス応用 (电子商 务应用)	消費者心理(消费者心理)	2	1	1					1%
	図形画像処理(图形图像处理)	4	4						2%
	商品E化(商品E化)	4			4				2%
	電子ビジネスネットワーク基礎 (电商网络基础)	3		3					2%
	ネットワーク経営・販売(网络营销)	3		3					2%
	二次元動画作成(二维动画制作)	4			4				2%
	電子ビジネスと物流配送 (电子商务物流配送)	2				2			1%
	電子ビジネスウェブページ制作 (电商网页制作)	4				4			2%
	取引先サービスと関係管理 (客户服务与关系管理)	2				2			1%
	電子ビジネス総合実習訓練 (电子商务综合实训)	4					4		2%
小計		32	5	7	8	12	0	0	17%
その他 (其他课 程)	企業実習(顶岗实习)	60					30	30	33%
	選択科目(选学课程)	8	2	2	2	2			4%
	小計		68	2	2	2	2	30	30
合計		184	31	31	31	31	30	30	100%

※備考：各科目の原語は（ ）である。また，カリキュラム表は2年毎に1回編成する。

出典：調査当日配布資料（訳）

表2【専門コア科目と応用科目の教育内容】

科目名	主な教育内容と要求
現代ビジネス (現代商务)	<ul style="list-style-type: none"> ●現代ビジネス戦略計画；現代ビジネス業務経営；現代ビジネス経営・販売戦略；現代ビジネス規格化管理；国際ビジネス基礎知識。 ・現代ビジネス活動の基礎知識と基本的な方法を学び，学生に企業での仕事を十分に把握させるようにする。 ・ビジネス活動の基本プロセスを十分に熟知することができる。 ・ビジネス活動に従事することができる。 ・『国家行政機関公文書取り扱い規則』，『国家行政機関公文書書式』，『出版物のデジタル使用に関する規定』など公文書と規範についての条件に照らして，明確な主題，正しい文書書類，標準書体，簡潔で要領をつかんでいる言語の応用文章で書き出すことができる。 ・コンピュータを操作し，各種常用文体によるテキストを作成することができる。
ビジネス 情報処理 (商务信息 处理)	<ul style="list-style-type: none"> ●現代の事務設備の使用；ビジネス情報の収集と選別；情報伝達の方法；電話や来訪者の対応と接待；指示，回答，議事録，通知文書，招待状などの書類を書くこと；パーソナルデータベースの作成；電子書類のための表の作成；情報をファイリングして保存すること。 ・学生に主要な現代の事務設備を使用することができるようにさせる。 ・収集，選別，分類，統計，電子ビジネス情報のとりまとめができる。 ・メールの利用，Web ページなど各種方法によりビジネス情報を伝達できる。 ・ビジネスに応じた礼儀・常識，電話や来客の対応，そしてすぐに情報に関わる記録をとることができる。 ・office 事務ソフトウェアを使って電子書類の作成を行い，公文書類を受け入れ発送することやパーソナルデータベースの作成をすることができる。 ・電子ビジネス情報のファイリングと保存を行うことができる。
電子ビジネス (电子商务)	<ul style="list-style-type: none"> ●電子ビジネスの基本概念；電子ビジネスの分類；オンラインショッピングの基本プロセス；安全保証技術とメカニズム；オンライン支払い，電子ビジネスのウェブサイトの開設。 ・電子ビジネスの概念を説明し，IP アドレスとドメイン名の役割を述べることができる。 ・電子ビジネスの簡単な取引を進めるための知識を学び活用することができる。 ・それぞれ異なった電子支払いの方法を行う取引を活用することができる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・書類の安全送付を行うことができる。 ・それぞれ異なった種類の電子ビジネスモデルを区分することができる。 ・簡単に html 語句についての説明ができる。 ・EDI ソフトウェアを使用することができる。 ・IE, Outlook を使用することができる。 ・FrontPage を使って静的なウェブページを作成することができる。 ・通常のアンチウィルスソフトを使用することができる。 ・ビジネス情報と公表されている情報を検索することができる。
<p>ビジネス 文字入力 (商务字符录入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ビジネス英語入力；ビジネス中国語入力；商品価格と HS コーディングの入力；ビジネス文字混合入力。 ・学生にビジネス英語の手紙や電報の入力をキーボードで毎分 120 文字以上打つことができるよう熟達させる。 ・五画字形のインプット方法を用いて，常用漢字の文字判断を行い，ビジネス中国語のテキストで毎分漢字 30 字以上を入力できるよう熟達させる。 ・商品価格と HS コーディングなどの数字を速く入力できるようにする。 ・電子ビジネス中国語，英語と数字の混合した入力を熟達させる。
<p>消費者心理 (消费者心理)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●消費者心理学の研究対象，内容，方法及び意義；消費者心理学の基礎理論；消費需要と消費者購買動機；消費者の購買策略；消費者の購買行為；消費者グループと購買行為心理の特徴；消費流行，消費風習と消費心理。
<p>図形図像処理 (图形图像处理)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●図像色彩原理，図形図像処理の基本理論と基本常識。
<p>商品 E 化 (商品 E 化)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラの基本構造；常用カメラの種類，主な技術性能及び機能；三脚やライトスタンドの操作方法；光と商品テクスチャに関する知識；フラッシュ，スタジオライトの効果及び作用；商品撮影における配光法則；商品撮影構図原理；通常のネットショップホームにおける需要のある商品図像の寸法；カットアウトの方法；木刻画印刷の作用と制作；商品に関する説明についての規定；商品に関する説明のテンプレートの作成工程；商品名の付け方とその技巧；キーワード設定に関わる要点；共通のネットショップホームにおける製品の登録規則；商品を公表する際の注意事項。
<p>電子ビジネス ネットワーク基礎 (电商网络基础)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータネットワークの基礎知識；ローカルエリアネットワーク，インターネットワーキング，高速ネットワーク技術；Internet 技術；ネットワークの操作体系とプログラム；ネットワーク管理とネットワークセキュリティ。

<p>ネットワーク 経営・販売 (网络营销)</p>	<p>●ネットワーク経営・販売の概要：ネットワーク経営・販売の環境と技術応用；ビジネスサイト開設と普及；ネットでの市場調査技術；ネットワーク経営・販売の対象分析；ネットワーク経営・販売の基本戦略；ネットワーク経営・販売の4C戦略；ネットワーク広告の戦略；ネットワーク経営・販売の戦略と計画；模擬実験等.</p>
<p>二次元動画 作成 (二维动画制作)</p>	<p>●コンポーネントの概念；基本図形（線，楕円，長方形等）のツール；絵図（鉛筆，筆，インク瓶）のツール；動画ファイルの形式；フレーム，キーフレーム，余白幅，余白キーフレームの概念；動画の類型；案内項目の作用；マスクの原理；アクション脚本の概念.</p>
<p>電子ビジネスと物流配送 (电子商务与物流配送)</p>	<p>●現代物流の基本概念；物流の性質；物流の発展過程；物流の基本機能；国際物流，第三者物流の進行工程と管理モデル.</p>
<p>電子ビジネス ウェブページ制作 (电商网页制作)</p>	<p>●ウェブページのフォームを組織する技術；フォームの属性；項目の運用；ハイパーリンクの創設；図の挿入；ウェブサイトを立ち上げて管理すること；フレームページの立ち上げ；フォームページの創設；図と文の混在；CSS様式表；利用時間軸実現動画；ウェブページの中に動画を加えること.</p>
<p>取引先サービスと 関係管理 (客户服务与关系管理)</p>	<p>●取引先分析と取引先の価値；取引先関係管理の経営・販売戦略；取引先関係の管理システム；取引先のコールセンター；取引先関係の管理項目実施；CRMとデータファイル；CRMとデータ探索.</p>
<p>電子ビジネス 総合実習訓練 (电子商务综合 实训)</p>	<p>項目一：ネットワークツールの使用 項目二：B2C電子ビジネスモデル 項目三：B2B電子ビジネスモデル 項目四：C2C電子ビジネスモデル 項目五：電子ビジネスウェブページ開設 項目六：ネットワーク経営・販売</p>

※備考：各科目の原語は（ ）である。

出典：調査当日配布資料（訳）

（3）専門科目の教育内容と授業の特徴

電子ビジネスの分野で必要とされる基本的なコンピュータスキルやビジネスマナーが専門コア科目の主な教育内容となっている。専門分化した専門系列科目では、電子商取引に必要なより実務的なコンピュータスキルとウェブページ制作のためのスキル、消費者心理、取引先サービス・管理など限定的な職業分野に準じた教育内容であると判断できる。専門科目は、電子商取引に関わる特定のコンピュータスキルなどの技術の習得を中心に構成されているという特徴がある。

電子ビジネスコースの教員に行ったインタビュー調査より、電子ビジネスの専門科目はそのほとんどがコンピュータのある実習室で行われているという。そのため、たとえばコンピュータの操作、ソフトウェアの操作、ウェブページ制作、取引先との連絡、ビジネス書類を書くなどのような実習とみなすことのできる内容が、それぞれの専門科目の教育内容に含まれている。すべての専門科目にこのような実習が含まれており、座学を主とする授業がみられない。この点で、一つひとつの専門科目の中で座学と実習が一体化した授業が展開されているといえるだろう。

4-3. 共通基礎科目の多様化

共通基礎科目において、「中等職業教育カリキュラム開発の基準についてハンドブック」(2006)に基づいて「公共基礎類」、「徳・体・美類」、「生涯心理類」という3つの科目に分けられている。それらの枠組みや内容を専門科目と結合し、座学と実習の一体化を強化する。

1) 公共基礎類は専門科目習得のための基礎科目であり、職業教育と普通科教育の絆となり、語文、数学、英語、コンピュータ応用基礎等を含む。当校のカリキュラムの中で、実践教育を重視するため、英語が電子ビジネス英語と英語のリスニング・スピーキングに展開され、コンピュータ応用基礎は情報技術基礎を設けている。実用内容を拡充し、総合的な職業能力へ緊密にめぐらせる内容へと編成している。

2) 徳・体・美類は「中等教育段階の職業学校生徒の思想道德教育を強化することに関する意見」(2009)によると、「職業学校で徳育科目は職業道徳、職業資質、生涯発展を強調すべきだ」と述べた。「体育」と「美育」についても生徒の「全面発達」内容の中で重要な部分であり、「生徒の身体適応能力、健康な審美観念や審美能力など」が含まれるとされている。

3) 当校の「徳育」教員インタビューによると、生涯心理類とはキャリア計画、心理健康、創業等教育を提供する教育である。1年次の前期は「キャリア計画」、後期は「職業道徳と法律」を設け、2年次の前期は「経済政治と社会」、後期「哲学と人生」を設けている。職業計画、就職指導、情報検索等を通じて、生徒に職業キャリアの選択を提供させる。

上記のように、公共基礎科目の多様化に向かっている。「徳育」、「キャリア計画」等という科目を設けて、生徒個人の素質や、生涯計画、職業道徳を重視することとなり、共通基礎教育の比重が増加されている。その一方、普通科目(語文、数学等)の授業時間が削減されるため、共通基礎科目が全体の35%しか占めておらず、全体の1/3程度となっている。電子ビジネスはコンピュータや英語の知識をより実用的に習得するため、電子ビジネス英語やリスニング英語・スピーキング、情報技術基礎を設けている。当校の教員でも職業能力を育成するため、普通科目の内容等は専門科目のニーズによって選択され、専門科目と結合させていくべきと考えられている。

4-4. 電子ビジネスの評価

上海市振華外経職業技術学校において、電子ビジネスでは「双証融通」クラスを設けている。「双証融通」を通じて生徒に「専門知識・職業素養・職業能力・職業資格」という「四位一体」を実験させている。専門教員のインタビューによって、学内の評価については、3つがある。一つ目は、授業の勤勉態度は30%であり、二つ目は、中間テスト（筆記試験）は30%であり、三つ目は、期末試験は40%である。すべてコンピュータを通して行われる。合格率は70～80%くらいになり、不合格な生徒は再試験を受けること。「職業技能鑑定」の施設で鑑定の専門家が生徒を評価する。専門教員も立ち会うが、評価できない。1年生は初級レベルの資格書が、2年生はほとんど中級レベル職業資格書が取得できること、そのうち、10%高級レベル資格書が取得できること、と述べた（表3参照）。

表3 「電子ビジネス」の職業資格書

職業資格のレベル	職業資格書
初級レベル	取引先サービス，ネットワーク普及とメンテナンス
中級レベル	電子ビジネス運営，ネットワーク経営・販売，ウェブサイトエディタ
高級レベル	電子ビジネス運営師，データ分析師，プロジェクト開発エンジニア

出典：調査当日配布資料（訳）

5. 結論

本研究では、徐国慶のカリキュラム開発論を取り上げ、座学と実習の一体化の視点からみた「実技主導型」モデルの開発経緯を以下のようにまとめることができた。

- 1) 企業や職場の達成する目標から人材育成の目標への移行。
 - 2) 仕事のタスクを中心としてカリキュラムの仕組みとなる。
 - 3) 仕事のタスクと職業能力の分析結果に基づき、カリキュラムの内容を編成する。
 - 4) 典型的な製品やサービスの評価の統合により、「双証融通」の評価方法が多様化する。
- 最後に、「実技主導型」モデルの到達点と課題について考察する。

(1) 学校の専門教員と企業の専門家の一体化

「実技主導型」モデルは「総合的な職業能力」を育成するため、座学と実習の一体化を中心とするカリキュラムとして開発された。こうした取組みは主に仕事のタスクの役割がよく見られるものだが、中等職業教育学校においても、カリキュラム開発アドバイザーとして企業へ積極的に参加させ、「校企合作」の強化により、学校の専門教員と企業の専門家の一体化ということが達成された。そのうち、企業の専門家は仕事のタスクに熟知し、長期的に職場に従事して豊かな経験を通じて様々な意見を提供している。もちろん多くの専門教員が短期間で企業の

職業訓練を受け、実際の職場体験を大切にしながら、単に専門教員の力だけではなく、企業の専門家として不可欠な力だといえよう。

したがって、企業の専門家は如何に参加させるのか、カリキュラム開発の中でどのような役割を果たすのか、このような課題として展開している。「実技主導型」モデルは企業の専門家と学校の専門教員等共同としてカリキュラムが開発された。すなわち、企業の専門家は仕事のタスクと職業能力の分析、カリキュラム内容の編成という二つの役割を果たした。第一は、仕事を完了するために、必要なタスクやそれらに関わる職業能力を提供すること、第二は、校内実習の設備や、知識・技能が企業ニーズに適応されるかどうかを確認すること。他方、学校の専門教員はカリキュラム開発主体としてカリキュラムデザイン、編成等役割として強調されている。

(2) 座学と実習の一体化について

上海市振華外経職業技術学校は都市化や新しい技術に基づく産業の発達などに伴い、学校教育と産業界の連携、中等教育段階と高等教育段階の連携により従来の中等職業教育の専門コース構造が大きく変わっている。

また、同校において、カリキュラムの編成における改革には二つの「一体化」が示されている。一つは、従来、即戦力の養成という目標に基づいたカリキュラムが、現在の職業技術の実態に対応できなくなる限界を克服するために、専門的知識・技能という「総合的な職業能力」の育成を中心としながら、共通基礎的な教育を拡充する動き、いわゆる職業と教育の「一体化」の動きが見られる。もう一つは、「実技内容」を中心として全体の2/3程度時間数(校外実習を含む)となっている。専門教員もコンピュータの教室を活用して座学と実習の一体化の授業を実験している。この一体化の授業によって、学校の教室と実習センターとの距離を縮め、理論知識(座学)と技能訓練(実習)との相互補完の関係が図られた。生徒は、授業を受けながら実習を行い、また、実際の操作を通じて専門分野に関する知識や技能に対してよりわかりやすく、今まで以上に重要となってくると考えられるだろう。

本研究では、電子ビジネスの学校で行われている教育内容の検討までが限界であり、カリキュラムの約1/3を占める「企業実習」の内容については検討できていない。今後は、座学と実習の一体化のもう一つの見方として、学校の教育内容と企業での実習との連続性を検証する必要があるだろう。また、学校内での実習についても、その実習の中での理論的学習の展開がどの程度行われているかなど、より詳細な実地調査を継続することで、座学と実習の一体化の現状を見極めていきたい。

【今後の研究課題】

上海市におけるカリキュラムの実態から見て、独自の特色あるカリキュラムを自作していることが明らかにした。すなわち職業教育と高等教育との接続、キャリア教育に学校の特色づく

りが現れている。下記は今後の研究課題を指摘しておきたい。

(1) 職業教育と高等教育との接続

「現代職業教育体系」を構築するため、中等教育段階と高等教育段階の職業教育の連携等のカリキュラムシステムの整備が求められる。上述の学校において、生徒が高等職業学院や大学への進学意欲を高めて、進学希望を実現させるために、高等教育機関とより連携を強化している。他方、「学歴社会」である中国において、「一人っ子」政策の遂行に伴い、「我が子」に高度な教育を求める一般民衆の要求とあいまって、大学進学に有利である高級中学（普通高校）が選ばれ、技能型人材を育成する職業学校が敬遠されたのである。このような影響下にあって、今後は、中等職業学校の教育内容と高等教育機関との接続性を検討する必要がある。

(2) キャリア教育について

経済と教育の先進地域である上海市では、2010年に発表された「2020年までの上海市の教育中長期計画」⁸⁾では、「職業キャリア指導等生涯にわたるキャリア教育」を推進している。そのため、2012年には、「職業キャリア教育を発展させるための行動計画」⁹⁾を発表した。2014年4月より、全児童・生徒を対象とした「職業体験日」を開催した。今後は、職業教育とキャリア教育の関連性や、生徒を対象とする意識等考察を行いたい。

付記) 本論文は、その一部を日本産業教育学会第56回大会で口頭発表を行った。

<注>

- 1) 劉文君著『中国の職業教育拡大政策－背景・実現過程・帰結－』(2004年, 東信堂) p.6.
- 2) 教育部は、2010年「国家中長期教育改革・発展計画綱要(2010年～2020年)」に基づく「現代的な職業教育体系」を企画し、2014年6月に「現代職業教育体系構築計画(2014～2020年)」を発表した。教育部ウェブサイト, 2014年6月6日, 6月16日(2014年8月14日閲覧)
- 3) 国务院「現代職業教育の発展促進に関する決定」(2014.5) 教育部ウェブサイト, 2014年5月2日(2014年8月14日閲覧)
- 4) 同注2
- 5) 中国就业培训技术指导中心 編『职业课程－职业技能课程的开发理论与实务－』(2010年, 北京師範大学出版社) p.315.
- 6) 徐国慶 著『实践导向职业教育课程研究: 技术学范式』(2005年, 上海教育出版社) p.31.
- 7) 孟慶国主編『现代职业教育教学论』(2009年, 北京師範大学出版社) p.39.
- 8) 前掲書同注6, p.225.
- 9) 「実技主導型」モデルについて, 朴雪梅「中国における中等職業教育カリキュラム開発モデル」『技術・職業教育学研究室 研究報告 技術教育学の探求』第10号で, その要点を紹介した(名古屋大学大学院教育発達研究科技術・職業教育学研究室 2013年10月) pp.6-10.
- 10) 上海大港職業教育センター所長である。「21世紀中国职教课程发展目标于模块选择 载于面向21世紀的职

- 業教育教学改革」(1998年, 高等教育出版社)『职业和技术教育课程概论』(2001年, 華東師範大学出版社) pp.29-33.
- 11) 北京市朝陽区職業教育センターに蔣乃平「集群式模块课程属于多元整合型课程—对“宽基础・活模块”的再思考之八」(『教育と职业』1999年, pp.10-12)
蔣乃平等「宽基础・活模块课程结构研究」『中国职业教育』2002年 pp.50-53.
 - 12) 「宽基礎・活模塊」モデルについても, その要点を既に紹介した. 同注9, pp.2-6.
 - 13) 欧米や日本等先進国で座学(職業学校)と実習(企業等職場)連携より学校改革に取り組んでいる. ドイツのデュアルシステム, アメリカの「合作教育」(Cooperative Education), イギリスの「サンドイッチ教育(座学—実習—座学)」, ロシアの「教育生産の連合体」, 日本の「産学連携」という様々なモデルである. 周明星・吳柄岳「中外职业教育工学結合模式的比较与借鉴」(荆门职业技术学院学报・教育學刊 第23卷 第1期 2008年) pp.4-8.
吳柄岳「工学結合: 理論与借鉴」(中国职业技术教育 总第315期 2008年) pp.16-17.
 - 14) 教育部(2006)「一部職業教育学校で半工半讀という制度を試行する通知」の中で, 半工半讀とは現代職業教育の教育制度の1つであり, 校企合作, 工学結合という人材育成モデルの1つである.
 - 15) 孟慶國は中国職業技術教育学会理事であり, 天津職業技術師範大学校長である. 「職業教育の教育理念論」前掲書, pp.24-29.
 - 16) 丁妍『現代中国の中等職業教育—市場經濟移行期における技術労働者学校の変容—』(2008年, 星雲社) pp.53-56.
 - 17) それらの経験として, 具体的には, 1983年に国家教育委員会が承認し導入されたドイツのデュアルシステムをはじめ, 1987年に労働部により導入された国際労働機関(ILO)のMES (Modules for Employable Skills), また1989年にカリキュラム領域で導入されたカナダのCBE (Competence-Based Education), DACUM (Develop A Curriculum) 等があげられる.
 - 18) 同注16, pp.116-117.
 - 19) 同注9, pp.1-12.
 - 20) 上海市中等職業教育課程教材改革事務所(2006)では『中等職業教育カリキュラム開発の基準についてハンドブック』を制定し, 編成した. この『ハンドブック』は諸外国と国内の職業教育カリキュラム開発の成功経験を学んで, 上海市における中等職業教育改革・発展及び實際状況と組み合わせて, カリキュラム開発の基準に対する基本的な規範を定めて, 上海市中等職業教育におけるいっそうの改革を行うことをカリキュラム開発の基本構想に反映させた. さらに, 徐國慶は職業教育のカリキュラムの理論について3冊の本を編著した. それらは『职业教育课程论』(2008)『实践导向职业教育课程研究』(2008)『职业教育项目课程开发指南』(2009)である.
 - 21) 実技主導型モデル実践校の別例について, 上海市科技管理学校を紹介した. 朴雪梅「中等職業教育カリキュラム開発に関する日中国際比較研究—デュアルシステムの実践校を中心に—」『教育学論集』第3号 大阪市立大学教育学会 2014年12月, pp.6-8.
 - 22) 「技術実践能力」には3つの内容がある. まず, 「理論的な沈思能力」を相対し, 身体を使って, 仕事内容を完成する能力である. その中で, 身体の動きが重要な役割を果たしている. 次に, 技術実践能力は実践的思考を含む. 最後に, 技術実践能力の中で「能力」は英語で [competence], ドイツ語で [kompetenz] であり, 学業能力ではなくて, 技能, 態度, 価値観等様々な要因を含む総合状態である. 前掲書(同注6) p.168.
 - 23) 徐國慶著『职业教育项目课程开发指南』(2009年, 華東師範大学出版社) p.21.
 - 24) 趙志群著『职业教育与培训学习新概念』(2003年, 科学出版社) p.21, p.97.
 - 25) 20世紀80年代後期に北米・カナダのCBE (Competency-based Education) カリキュラムの理論を盛ん

座学と実習の一体化を中心とする中等職業教育のカリキュラム開発

にしている。中国では90年初に導入して理論研究と教育実践を行っている。「能力本位」とは「仕事のタスクを完了するため、職業能力の基準を予め確定し、生徒にその必要な知識、技能や態度に身につけさせる」ことである。徐国慶著『职业教育课程论』（2008年、華東師範大学出版社）pp.37-38.

26) 同上書 pp.139-140.

27) 「仕組み論」前掲書（注23）p.25.

28) 同上, pp.105-107.

29) 前掲書（注6）p.228.

30) 「双証融通」とは専門分野の制定と職業の基準の結合、座学と実習の結合、学校の学歴評価と職業技能評価の結合を通じて学歴証書と職業資格書の取得となり、学歴教育と技能訓練の一体化を実現することである。範心億「中等职业教育“双証融通”内涵反思」（职教论坛 2013, 13）pp.62-64.

31) 上海市教育委員会は「国家中長期教育改革・人材發展計画綱要（2010-2020）」と「中等教育段階の職業教育を改革・刷新するための行動計画（2010-2020）」によって、「中長期教育改革・人材發展計画綱要（2010-2020）」を制定した。

32) 原語では、「上海市学生職業（生涯）發展教育“十二五”行動計画」。

<参考文献>

丁妍（2008）『現代中国の中等職業教育－市場經濟移行期における技術労働者学校の変容－』星雲社

黄克孝（2001）『职业和技术教育课程概论』華東師範大学出版社

劉文君（2004）『中国の職業教育擴大政策－背景・實現過程・帰結－』東信堂

孟慶国（2009）『现代职业教育教学论』北京師範大学出版社

文部科学省（2013、2014、2015）『諸外国の教育動向 2012 年度版～2014 年度版』明石書店

石偉平・徐国慶（2011）『职业教育课程开发技术』上海教育出版社

徐国慶（2005）『实践导向职业教育课程研究：技术学范式』上海教育出版社；（2008）『职业教育课程论』華東師範大学出版社；（2008）『实践导向职业教育课程研究』上海教育出版社；（2009）『职业教育项目课程开发指南』華東師範大学出版社

趙志群（2003）『职业教育与培训学习新概念』科学出版社

中国就业培训技术指导中心（2010）『职业课程－职业技能课程的开发理论与实务－』北京師範大学出版社

本論文について、1. 2. 3. 4-1. 4-3. 4-4. 5. を朴が、4-2. 5（2）の一部を井上が、それぞれ執筆して、全体の調整を朴が担当した。